

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）														
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士前期課程）【既設】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	生命工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物化学工学特論	1①②		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	有機電子材料科学	1①②		2		○			1	1				
	超分子認識化学	1①②		2		○				1				
	光化学とケミカルバイオロジー	1③④		2		○			1	1				
	生命機能化学	1①②		2		○			1	1				
	化学工学特論	1③④		2		○								兼2
	物性分析工学	1③④		2		○			1	1				
	ナノ物性計測工学	1①②		2		○								兼1
	時空間フォトニクス	1①②		2		○				1				
	光計測工学	1①②				○								兼1
	応用表面科学	1③④		2		○			1	1				
	レーザー分光光学	1③④		2		○								兼1
	表面原子制御特論	1③④		2		○								兼1
	物質生命工学特別課題演習	1①②	4			○			7	8		5		
	物質生命工学ゼミナール	1③④	8				○		7	8		5		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物資源工学A	1①		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物資源工学B	1②		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ゲノム機能工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論A	1①		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論B	1②		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	分子微生物学	1①②		2		○				1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論A	1①		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論B	1②		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命環境システム工学特論	1③④		2		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	バイオテクノロジー特論	1①②・ 1③④		2		○			7	8	1	6		高度国際性涵養教育科目として履修可
	組織生産プロセス工学	1①②		2		○			1	1				
	生物工学ゼミナールⅠ	1通	2			○			7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅡ	2通		2		○			7	8	1	6		
	生物工学実験	1①②	2					○	7	8	1	6		
	生命先端工学特論Ⅱ	1③④		2		○			1					
	海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	応用生物工学A	1③		1		○			8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	応用生物工学B	1④		1		○			8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物プロセス工学	1③④		2		○			2	2				高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー特論Ⅱ	1③④		2		○			8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅠ	1③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅡ	2①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅢ	2③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可

	先端バイオテクノロジーゼミナールⅣ	2①②		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可 高度国際性涵養教育科目として履修可 高度国際性涵養教育科目として履修可 高度国際性涵養教育科目として履修可 高度国際性涵養教育科目として履修可 高度国際性涵養教育科目として履修可 高度国際性涵養教育科目として履修可 高度国際性涵養教育科目として履修可 集中
	先端バイオテクノロジー実験Ⅰ	1③④		4			○		8	9	1	7	
	先端バイオテクノロジー実験Ⅱ	1①②		4			○		8	9	1	7	
	英語特別課題演習	1③④	4				○		8	9	1	7	
	安全工学	1③④	1			○			8	9	1	7	
	工学日本語Ⅰ	1③④		1		○			8	9	1	7	
	工学日本語Ⅱ	1①②		1		○			8	9	1	7	
	ＥＳＰバイオテクノロジーＡ	1③④		1		○			8	9	1	7	
	ＥＳＰバイオテクノロジーＢ	1①②		1		○			8	9	1	7	
	ＥＳＰ先端化学Ａ	1③④		1		○			8	9	1	7	
	ＥＳＰ先端化学Ｂ	1①②		1		○			8	9	1	7	
	小計（54科目）	—	21	75	0	—			8	9	1	7	0 兼6
高度国際性 涵養教育科目	工学英語Ⅰ	1①②		2		○							兼4
	工学英語Ⅱ	1③④		2		○							兼4
	OJE方式による演習Ⅰ	1③④・ 2①②		2			○						兼4
	OJE方式による演習Ⅱ	1通		2			○						兼4
	インターンシップ	1③④・ 2①②		1				○					兼4 集中
	ビジネス日本語Ⅰ	1①②		2		○							兼4
	ビジネス日本語Ⅱ	1③④		2		○							兼4
	小計（7科目）	—	0	13	0	—			0	0	0	0	0 兼5
高度教養 教育科目	計算機化学	1①②		2		○							兼2
	生命先端工学特別講義Ⅰ	1①②			2	○							兼2
	生命先端工学特別講義Ⅱ	1③④			2	○							兼2
	生命先端工学特論Ⅰ	1①②		2		○							兼3
	先端バイオテクノロジー特論Ⅰ	1③④		2		○			8	9	1	7	
	小計（5科目）	—	0	6	4	—			8	9	1	7	0 兼9
合計（66科目）		—	21	94	4	—			8	9	1	7	0 兼20
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係				
卒業要件及び履修方法								授業期間等					
生命先端工学専攻博士前期課程に2年以上在学し、各コース（物質生命工学コース、生物工学コース、バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム）の定める修了要件を満たすこと。								1 学年の学期区分		4 期			
								1 学期の授業期間		8 週			
								1 時限の授業時間		9 0 分			

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）														
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士前期課程 物質生命工学コース）【既設】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手
専門 教育 科目	生命工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学A	1①		1		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	細胞動態学B	1②		1		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	生物化学工学特論	1①②		2		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	有機電子材料科学	1①②		2		○			1	1				
	超分子認識化学	1①②		2		○				1				
	光化学とケミカルバイオロジー	1③④		2		○			1	1				
	生命機能化学	1①②		2		○			1	1				
	化学工学特論	1③④		2		○							兼2	
	物性分析工学	1③④		2		○			1	1				
	ナノ物性計測工学	1①②		2		○							兼1	
	時空間フォトリクス	1①②		2		○				1				
	光計測工学	1①②				○							兼1	
	応用表面科学	1③④		2		○			1	1				
	レーザー分光学	1③④		2		○							兼1	
	表面原子制御特論	1③④		2		○							兼1	
	物質生命工学特別課題演習	1①②	4			○			7	8		5		
	物質生命工学ゼミナール	1③④	8				○		7	8		5	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	小計（18科目）	—	12	28	0	—		7	8	0	5	0	兼6	
高度 国際性 涵養 教育 科目	工学英語Ⅰ	1①②		2		○							兼4	
	工学英語Ⅱ	1③④		2		○							兼4	
	0JE方式による演習Ⅰ	1③④・ 2①②		2			○						兼4	
	0JE方式による演習Ⅱ	1通		2			○						兼4	
	インターンシップ	1③④・ 2①②	1					○					兼4	
	ビジネス日本語Ⅰ	1①②	2		○								兼4	
	ビジネス日本語Ⅱ	1③④	2		○								兼4	
小計（7科目）	—	0	13	0	—		0	0	0	0	0	兼5		
高度 科目 教養	計算機化学	1①②		2		○							兼2	
	生命先端工学特別講義Ⅰ	1①②			2	○							兼2	
	生命先端工学特別講義Ⅱ	1③④			2	○							兼2	
	小計（3科目）	—	0	2	4	—		0	0	0	0	0	兼6	
合計（28科目）		—	12	43	4	—		7	8	0	5	0	兼17	
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
（物質生命工学コース） 上記科目から必修科目を含めて16単位以上、選択科目については、生物学・化学・物理学の3分野の授業科目のうち、2分野以上にわたり単位を修得し、専門教育科目から14単位以上、高度国際性涵養教育科目から2単位以上、高度教養教育科目から2単位以上を含み、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として算入し、必要単位を超える分は専門教育科目の単位として算入する。 ただし、工学英語Ⅰ・Ⅱ、0JE方式による演習Ⅰ・Ⅱ、インターンシップ及びビジネス日本語Ⅰ・Ⅱは、上記科目から必修科目を含めて16単位以上の中には含まれないので注意すること。							1 学年の学期区分		4 期					
							1 学期の授業期間		8 週					
							1 時限の授業時間		9 0 分					